

植生学会第19回大会プログラム

会期 2014年10月17日(金)～10月21日(火)
会場 朱鷺メッセ(一般講演, 総会, 現地研究会説明会, 懇親会)
新潟大学駅南キャンパスときめいと(各種委員会)

学会長 石川 慎吾
大会会長 崎尾 均
実行委員長 中田 誠

大会日程

10月17日(金)～18日(土)

現地研究会①

佐渡島の新潟大学演習林スギ天然林ほか

10月18日(土)

企画委員会・表彰委員会 (13:00～14:00)

編集委員会 (14:00～15:30)

運営委員会 (15:30～18:00)

10月19日(日)

受付(9:00～)

一般講演 口頭発表 (9:45～11:45, 14:00～15:30)

一般講演 ポスター発表 (10:00～16:00, コアタイム 12:15～13:45)

総会・学会賞授与式 (16:00～17:00)

学会賞受賞者講演 (17:00～17:30)

現地研究会説明会 (17:30～17:45)

懇親会(会場 3階 302A) (18:00～20:00)

10月20日(月)～21日(火)

現地研究会②

佐渡島の新潟大学演習林スギ天然林ほか

植生学会第19回大会実行委員会

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050 新潟大学農学部生産環境科学科内

電話・Fax:025-262-6624 E-Mail:nakata@agr.niigata-u.ac.jp

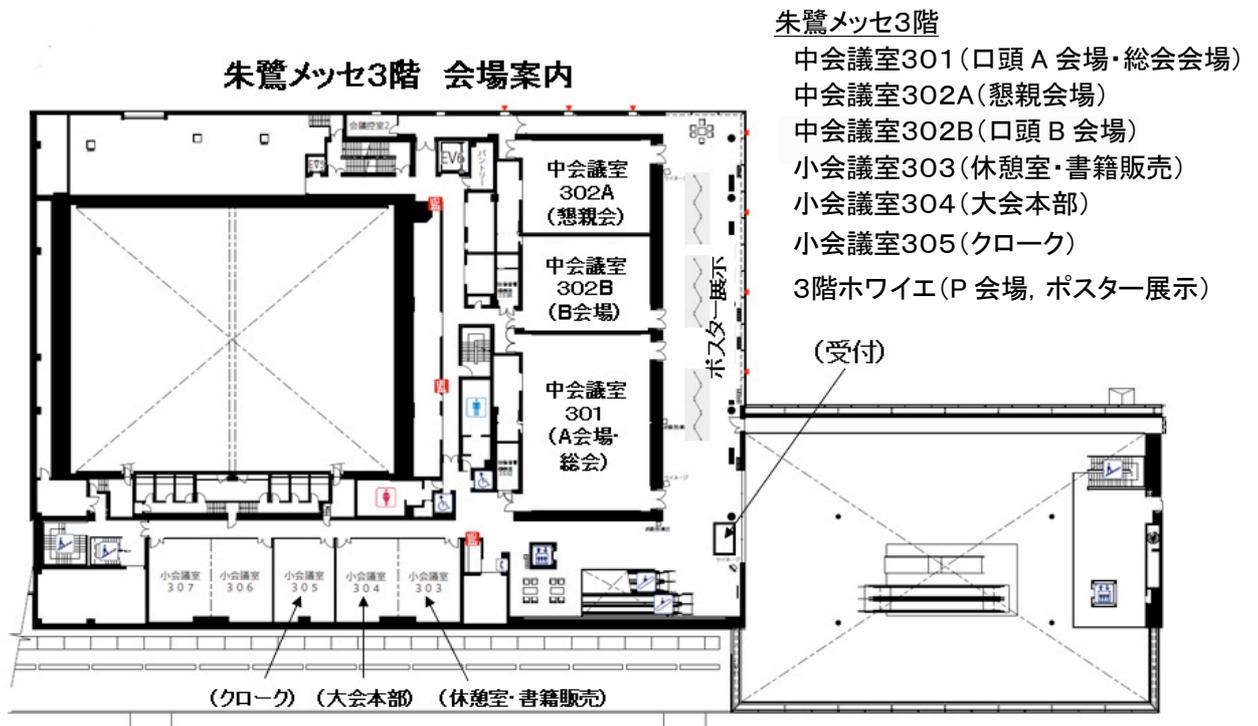
大会ウェブサイト <http://www.sasappa.co.jp/shokusei/congress/2014/>

会場案内

朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)

〒950-0078 新潟市中央区万代島 6 番 1 号 TEL 025-246-8400

ホームページアドレス <http://www.tokimesse.com/>



* 諸事情により, 使用する部屋を変更する場合があります. 掲示にご注意下さい.

* 朱鷺メッセは指定された場所以外での喫煙を禁止しています. 喫煙される場合は, 1 階ロングプロムナード(信濃川沿いスロープ昇り口付近)の指定喫煙場所をご利用下さい.

* 車を利用する場合, 会場近くに万代島駐車場(有料)がありますのでお使い下さい.

(<http://www.tokimesse.com/visitor/parking/>)

★受付について

(1) 大会参加受付は, 19 日 9:00 より, 朱鷺メッセ3階の中会議室301前の廊下で行います.

(2) 事前に参加申し込みをされていない方は, 「当日参加」の表示がある机で受付けます.

当日参加の場合, 諸費用はその場でお納めください.

大会参加費: 一般 3,000 円, 学生 2,000 円 懇親会参加費: 一般・学生とも 5,000 円

現地研究会については, 参加申し込みを終了しました.

★大会期間中(10 月 17~21 日)のお問い合わせは, 19 日は大会本部(朱鷺メッセ 3 階・小会議室 304), それ以外は実行委員会・中田(電話 025-262-6624, E メール nakata@agr.niigata-u.ac.jp)までお願いします.

一般講演に関する注意事項

口頭発表について

1. **講演時間は 15 分** (発表 13 分, 質疑応答 2 分) です。
発表数, 会場の都合により大会案内での予告より短くなっております。ご了解ください。
2. 講演者は, 次の講演の座長をお願いします。午前・午後の最初の講演の座長は実行委員会で行います。
3. 次の講演者は会場前方の座席で待機し, すみやかな交代にご協力ください。
4. 講演はパソコンによるスライドショーで行います。パソコンは会場に備え付けのものを利用してください。持ち込みパソコンの使用はできません。
5. 講演中のパソコン操作は, 講演者本人か共同研究者が行ってください。
6. USB メモリに発表用ファイルのみを保存して持参し, 下記の時間内に各会場の実行委員立会いのもと, 会場で使用するパソコンにコピーしてください。なお, USB メモリは最新のウイルスチェックを行ったうえでお持ちください。
午前の講演 (講演番号 01~08) 19 日 9:00~ 9:35
午後の講演 (講演番号 09~14) 19 日 12:00~12:30

<発表用ファイルの作成に関する注意>

- 会場で使用するパソコンの OS は Windows 7 です。
- プレゼンテーションに使用するソフトは, MS PowerPoint 2010, もしくは Adobe Reader 11 です。プレゼンテーションファイルは ppt 形式 (PowerPoint 2003) または pptx 形式 (PowerPoint 2007 以降), もしくは pdf 形式としてください。
- Mac 版のソフトウェアで作成する場合は, Windows 版の上記ソフトで正常に表示・操作できるか十分に確認のうえお持ちください。
- ソフトの順調な動作を期して, アニメーションの多様をお控えください。
- ファイル名は本プログラムに掲載されている講演番号と演者氏名 (例: A01 植生太郎) としてください。

ポスター発表について

1. ポスターは A0 版 (横 84cm, 縦 119cm) 以内の大ききで作成してください。
2. ポスターは講演番号が記された所定の位置に掲示してください。掲示に必要な画鋏 (ピン) は会場に準備しておきます。
3. ポスターは 19 日の 10:00 までに掲示し, 16:00 までに撤去してください。コアタイムは 12:15~13:45 です。
4. コアタイムの間, 演者はポスターの横に立って説明をしてください。特に発表賞に応募された方は, この時間帯に不在の場合, 審査の対象となりませんのでご注意ください。

講演プログラム

口頭発表 10月19日(日) 9:45-15:30 A会場(中会議室301)・B会場(中会議室302B)

時間	A会場	B会場
9:45	<p>A01 衛星リモートセンシングデータを用いた広域スケール植生図化学法の開発(予報)</p> <p>○原慶太郎・原田一平・富田瑞樹・朴鐘杰・浅沼市男(東京情報大学)・原正利(千葉県立中央博物館)・平吹喜彦(東北学院大学)・藤原道郎(兵庫県立大学大学院)</p>	<p>B01 大分川河川敷ヤナギ林の動態 20年間のまとめ</p> <p>○桑原佳子・足立高行(応用生態技術研究所)</p>
10:00	<p>A02 シダ植物の標高に沿った種多様性のメタ解析</p> <p>○田中崇行・佐藤利幸(信州大学)</p>	<p>B02 国指定天然記念物小堤西池のカキツバタ群落30年間の動態—永久柵の観察—</p> <p>○中西正(豊丘高校)・浜島繁隆(元愛知県環境審議会専門調査員)・川角法子(愛知県)・大川徹(神戸女学院中高部)</p>
10:15	<p>A03 伊豆諸島御蔵島の自然植生の垂直分布と土壌の断面形態</p> <p>○森優美・田村憲司・上條隆志(筑波大学生命環境科学研究科)</p>	<p>B03 国指定天然記念物「女満別湿生植物群落」における地下水位の変動</p> <p>○富樫晃一(北海道大・院・農)・富士田裕子(北海道大学北方生物圏 フィールド科学センター植物園)</p>
10:30	<p>A04 伊豆半島東海岸の海岸植物群落</p> <p>田中徳久(神奈川県立生命の星・地球博物館)</p>	<p>B04 静狩湿原における池塘植生の変遷と排水路の関係</p> <p>○イアヨン(北海道大学大学院農学院)・富士田裕子(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)</p>
10:45	<p>A05 東日本山地溪畔林の植生地理学的研究</p> <p>○深町篤子・星野義延(東京農工大学)</p>	<p>B05 釧路湿原周縁にみられる湧水辺植生</p> <p>佐藤雅俊(帯畜大)</p>
11:00	<p>A06 伊豆天城山におけるヒメシヤラとヒコサンヒメシヤラの同所的共存機構</p> <p>○大淵香菜子・武生雅明・中村幸人(東京農業大学)</p>	<p>B06 静岡県浮島ヶ原における絶滅危惧植物サワトラノオの生育環境と生育の状況</p> <p>○下田路子・芹澤卯享・前澤瑞城・永田舞・加須屋真(常葉大学社会環境)・伊東巧(富士すみどりの課)</p>
11:15	<p>A07 ブナ林の発達が悪い本州中部内陸地域における冷温帯夏緑広葉樹林の種組成と分布</p> <p>○設楽拓人・中村幸人・武生雅明(東京農大・院・農)</p>	<p>B07 さいたま市荒川河川敷のハンノキを中心とした河畔林における春植物の分布解析</p> <p>○若山正隆・古橋光弘・佐藤正人・山口綾子・中村純子(浦和自然観察会)・大澤元(自然観察指導員埼玉)・横尾 柁子・西ノ原章浩(浦和自然観察会)・高橋勝緒・高橋絹世(和光・緑と湧き水の会)・太田和夫(元埼玉県立自然史博物館)</p>
11:30	<p>A08 マツ枯れ後、天然下種により発生したアカマツ実生</p> <p>○大西史豊・養父志乃夫(和歌山大学大学院システム工学研究科)</p>	<p>B08 湖沼周辺の水路における水生植物群落の保全について</p> <p>○片桐浩司・大寄真弓・萱場祐一(独立行政法人土木研究所)</p>
11:45	<p>昼食休憩(11:45-12:15)</p>	
12:15	<p>ポスター発表コアタイム(12:15-13:45) P会場(3階ホワイエ ポスター展示スペース)</p>	

時間	A会場	B会場
14:00	A09 武蔵野台地の長期末利用地に成立した落葉広葉樹林の特徴 ○吉川正人(東京農工大・院・農)・中村徹(筑波大)	B09 住宅団地が都市における草原生植物の保全に果たす役割 上村晋平(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)
14:15	A10 韓国マウルの二次林に関する研究 ○李昇京・吉川正人(東京農工大・院・農)・尹鐘学(国立生物資源館)	B10 春日山照葉樹林におけるシカ柵内の植生変化と林冠条件 前迫ゆり(大阪産大・院・人間環境)
14:30	A11 南米ボリビアアルティプレーノの土地利用と生態地理景観 沖津進(千葉大学大学院園芸学研究所)	B11 ニホンジカの食害が樹木の枯死率と森林の動態に及ぼす影響 ○比嘉基紀(高知大・理)・川西基博(鹿児島大・教育)・久保満佐子(島根大・生物資源)・大橋春香(森林総研)・崎尾均(新潟大・農)
14:45	A12 モンゴルの森林-草原境界部における群落組成の変化パターン ○川田清和・大橋春香・Hao LI・Sumya OYUNSUVD・Jamsran UNDARMAA・上條隆志・田村憲司(筑波大・生命環境系)	B12 東日本大震災被災地の海岸自然林について ○村上雄秀・目黒伸一・林 寿則・矢ヶ崎朋樹(IGES国際生態学セ)・佐々木寧(埼玉大名誉)・島田直明(岩手県立大)・鈴木康平(筑波大)
15:00	A13 東アフリカと東南アジアの山地林の植生比較 目黒伸一(国際生態学センター)	B13 仙台湾/砂浜海岸エコトーンで進む海岸林復興活動に対する生態学的疑問 ○平吹喜彦(東北学院大学 地域構想)・富田瑞樹・原慶太郎(東京情報大学 総合情報)
15:15		B14 高知県四万十川における自然再生事業「アユの瀬づくり」と菜の花祭りの共存を考える 古野佑果・比嘉基紀・○石川慎吾(高知大・理)

16:00	総会・学会賞授与式	
17:00	植生学会賞受賞者 記念講演	
17:30	現地研究会説明会	

懇親会会場へ移動

18:00	懇親会(18:00~20:00 会場:3階 中会議室302A)
-------	---------------------------------

ポスター発表 10月19日(日) コアタイム12:15-13:45 P会場(3階ホワイエ ポスター展示スペース)

<p>P01 長野県上高地梓川氾濫原における林床植生の植生と分布</p> <p>○若松伸彦・柏倉美沙・武生雅明・中村幸人(東京農大・地域環境)</p>	<p>P11 東京都府中市における希少植物の保全に重要な地域の環境特性</p> <p>○村上知帆・星野義延・吉川正人・崎尾萌(東京農工大学)</p>
<p>P02 北アルプス雲ノ平における高山植生の分布と攪乱との応答</p> <p>高瀬藍(東京農大・森林生態)</p>	<p>P12 岩手県の砂浜ごとの種組成の相違は何によってもたらされているか?</p> <p>○島田直明(岩手県立大)・川西基博(鹿児島大)・早坂大亮(近畿大)</p>
<p>P03 浮島湿原の植物相及び植生の現状把握</p> <p>船本麻奈未(北海道大学農学院)</p>	<p>P13 伊豆諸島大島および三宅島の噴火後の植生</p> <p>○久保田七海・染矢貴・浅井樹・篠原光礎(アジア航測株式会社)</p>
<p>P04 新潟県における海岸の希少植物バシクルモンの分布・個体群構造と植生の関係</p> <p>○指村奈穂子(神奈川県自然環境保全センター)・大谷雅人・古本良(森林総研・林木育種センター)・横川昌史(大阪市立自然史博物館)・澤田佳宏(兵庫県立淡路景観園芸学校)</p>	<p>P14 火山性荒廃地における東京クレセントロール工法の治山緑化機能の評価</p> <p>○菊池輝海(筑波大学生命環境科学科)・上條隆志(筑波大学生命環境系)・小川泰浩(森林総合研究所)・岡部宏秋・石森良房(株式会社伊豆緑産)</p>
<p>P05 変化の著しい隣接群落境界に関する研究</p> <p>○藤原道郎(兵庫県立大・院・緑環境景観マネジメント/淡路景観園芸)・伊藤休一(緑生研)</p>	<p>P15 霧島山系における約30年間の植生変化(予報)</p> <p>○山川博美・安部哲人・野宮治人(森林総研九州)・南谷忠志(宮崎植物研究会)</p>
<p>P06 希少樹種クロボウモドキ(バンレイシ科)の生育立地と植生</p> <p>○澤田佳宏(兵庫県立大・緑環境景観マネジメント研究科)・指村奈穂子(神奈川県自然環境保全センター)・池田明彦・大谷雅人(森林総研・林木育種センター)・須貝杏子・内貴章世(琉球大・熱帯生物圏研究センター)・中山博子(神奈川県自然環境保全センター)・古本良(森林総研・林木育種センター)・横川昌史(大阪市立自然史博物館)</p>	<p>P16 多雪地・天然林の斜面地形上におけるスギの種子散布と実生の消長</p> <p>○寄元道徳・藤井弘明・細見純嗣・柳本順・伊藤雅敏・太田健一・浅野善和・大橋健太・岡部芳彦(京都大・フィールド科学教育研究センター)</p>
<p>P07 湧水湿地における微生育立地の多様性が植生構造に及ぼす影響</p> <p>渡邊己治子・○肥後睦輝(岐阜大・地域科学)</p>	<p>P17 放棄された落葉広葉樹二次林の成立過程</p> <p>白田麻純(岡山大・院・環境)</p>
<p>P08 新潟大学佐渡演習林に自生するモウセンゴケの個体群維持要因</p> <p>○須貝凌(新潟大・院・自然科学)・中田誠(新潟大・農)</p>	<p>P18 佐渡棚田跡地の埋土種子の組成と棚田ビオトープの植生の比較</p> <p>○藤彦祐貴(新潟大・院・自然科学)・中田誠(新潟大・農)</p>
<p>P09 ミツデウラボシの葉形態と孢子嚢群形成率の関係</p> <p>水野大樹(千葉大・院・園芸)</p>	<p>P19 ミクロネシア連邦ピングラップ島における居住地域の植生景観と有用植物の多様性</p> <p>○川西基博(鹿児島大・教育)・山本宗立(鹿児島大・島嶼研)・西村知(鹿児島大・法文)</p>
<p>P10 香川県有明浜における絶滅危惧種ハマウツボが寄生したカワラヨモギの生育特性</p> <p>○戎谷遵・岡浩平(広工大・院・環境)</p>	<p>P20 住宅地域における路傍雑草の出現とガーデニングの関係</p> <p>○西尾孝佳・栗原由依加(宇都宮大・雑草と里山の科学教育研究センター)</p>

ポスター発表 10月19日(日) コアタイム12:15-13:45 P会場(3階ホワイトエ ポスター展示スペース)

<p>P21 富士山南麓におけるスズタケの衰退に伴う林床植生</p> <p>佐藤佑樹(東京農工大学農学府自然環境保全学専攻)</p>	<p>P25 福島県中通り地域における景観構造の把握と山菜種の分布予測</p> <p>○木村絵里・星野義延・大橋春香(東京農工大学)</p>
<p>P22 東中国山地のいくつかの希少植物へのシカの影響</p> <p>永松大(鳥取大・地域)</p>	<p>P26 津波被害を受けた市街地跡に成立した湿地植生</p> <p>○星野義延(東京農工大学大学院)・星野順子(東京環境工科専門学校)・深町篤子(東京農工大学大学院)</p>
<p>P23 東日本大震災の津波による植生への影響</p> <p>○寺澤弘陽・磯田真紀・染矢貴・老岐信二・市橋理・塚本吉雄(アジア航測株式会社)・佐藤直人・木村元・阿部慎太郎・中山隆治(環境省自然環境局生物多様性センター)</p>	<p>P27 三陸海岸最北部の海崖植生の津波から4年目の状況</p> <p>○小山千穂・鮎川恵理(八戸工業大学)</p>
<p>P24 津波後に残存した森林の分布と木本種組成</p> <p>○富田瑞樹(東京情報大学)・菅野洋(東北緑化環境保全株式会社)・平吹喜彦(東北学院大学)・原慶太郎(東京情報大学)</p>	<p>P28 岩手県沿岸の植生—大津波の影響による変化(4)</p> <p>○竹原明秀・高橋和那・千葉麻里奈・佐々木裕子(岩手大・人社)・大上幹彦</p>

植生学会第19回大会 研究発表賞に応募された方へ

植生学会では、若手研究者による優れた研究を奨励するために学会表彰制度の一環として、毎年の大会における優秀な発表に対して「研究発表賞」を授与しています。この賞へ応募された方は以下の点に注意して準備をしてください。

1. 賞の種類

口頭発表賞:最も優秀な口頭発表に対して贈られます。

ポスター発表賞:最も優秀なポスター発表に対して贈られます。

2. 審査対象

申し込み時点において、学生あるいはポスドクで、かつ口頭発表賞またはポスター発表賞に応募した者。過去の大会で研究発表賞の受賞経験がないことも条件とします。ただし、共同研究者にはこれらの制限は設けません。国籍、性別、所属などは問いません。

3. 審査方法と審査項目

(1) 審査方法

大会参加者の中から植生学会表彰委員会が選任した審査員により、賞ごとに以下の項目について審査を行います。

(2) 審査項目

審査項目は口頭発表賞もポスター発表賞も同じです。審査は、「表現技術」「説明技術」「研究の質」という3つの観点から行われます。

「表現技術」では、文字や図表の見やすさ、情報の量、アピール性などについて審査されます。

「説明技術」では、説明の早さや声量、説明時間、質問への対応などについて審査されます。

「研究の質」では、新規性や独創性、データの質や量、解析方法、議論や結論の妥当性などについて審査されます。

(3) 事前審査

大会当日の短時間で審査を行うことは必ずしも簡単なことではありませんので、大会前に審査員による「講演要旨」の事前審査が行われます。事前審査では「研究の質」に加えて「要旨の作成技術」が審査されます。

4. 審査結果の発表

学会賞等の授与式後発表し、植生学会長から受賞者に表彰状が授与されます。また、受賞者の氏名を植生学会誌第33巻2号に掲載します。

懇親会のご案内

10月19日(日) 18:00~20:00 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)3階中会議室 302A

1. 懇親会は、朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)3階中会議室 302A で開催します。現地研究会説明会終了後、各自会場へおいで下さい。
2. 懇親会会場には必ず名札をご持参のうえ、入口で提示してください。また、懇親会終了後は、会場出口にて名札をご返却ください。
3. 原則として事前に参加申込をお願いします。当日参加も受け付けますが、人数が限定され、学生割引はありません。

現地研究会のご案内

今回は、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センターの佐渡演習林を訪れる1泊2日の1コースのみといたしました。1回の参加者定員に限られることから、大会の前後に40名ずつ合計80名先着順で2回に分けて実施いたします。

1. 現地研究会は乗用車等に分乗しますので、キャリアバックなど大きな荷物は新潟の宿泊先に預けるようお願いします。
2. 現地研究会は雨天決行です。レインスーツの携帯を奨励します。なお、現地の状況に応じてコースを変更あるいは短縮することがあります。晴天の際は、紫外線が強いことも予想されます。日焼け止め等をご準備下さい。
3. 演習林の中に入りますので、野外調査の服装と防水性のある靴をお勧めします。また、天候によっては、かなり寒くなることも予想されますので、防寒対策もお願いします。
4. 現地研究会の途中、食事が入手できる店舗には立ち寄りません。また、宿泊施設の近くには店舗はありません。
5. すでに乗車・宿泊定員に達しておりますので、事前申し込みをしていない方は参加できません。また、自家用車での参加はできません。
6. 新潟港と両津港の移動にはフェリーの他に高速船ジェットfoil(所要時間1時間5分)もありますが、満席の場合は乗船できませんので必ず予約をお願いします。
7. 宿泊施設には寝巻、タオル、洗面用具等はありませんので各自持参して下さい。

<コース概要と時程>

1回目<コース概要と時程>

10月17日(金)

15:15 佐渡島両津港の公用駐車場集合

新潟発 12:35-両津着 15:05 のフェリーに乗船してください。

15:30 出発 海岸植生を見ながら移動

17:00 佐渡ステーション着

17:30 施設の利用説明および佐渡の自然に関する解説

18:30 夕食

10月18日(土)

9:00 佐渡ステーション出発, 演習林 現地研究会(昼食は弁当を準備します)
15:30 両津港着 両津発 16:15-新潟着 18:45 のフェリー

2回目<コース概要と時程>

10月20日(月)

9:15 佐渡島両津港の公用駐車場集合 9:30 出発
新潟発 6:00-両津着 8:30 のフェリーもしくは
新潟発 7:55-両津着 9:00 のジェットfoilを利用して下さい。
10:30 演習林 現地研究会(昼食は弁当を準備します)
17:00 佐渡ステーション着
17:30 施設の利用説明および佐渡の自然に関する解説
18:30 夕食

10月21日(火)

9:00 佐渡ステーション出発 海岸植生を見ながら移動
11:00 両津港着 両津発 12:40-新潟着 15:10 のフェリー

演習林の概況については佐渡ステーション演習林のホームページをご覧ください。
(http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/sado_html/sado_index.html)

現地研究会での食事について

1回目現地研究会には, 17日夕食および翌日の朝食, 昼食は参加費に含まれています。2回目現地研究会には, 20日昼食および夕食, 翌日の朝食は参加費に含まれています。

その他

食事

隣接の万代島ビル2Fやホテル日航にコンビニ, レストランやカフェがありますが, 割高で収容人数が多くないと思いますので, あらかじめ宿泊施設周辺で購入していただいたほうが良いと思います。なお, 大会において, 実行委員会では昼食の用意をいたしませんので, 各自で確保の上, ご参加ください。

宿泊

宿泊は各自で手配してください。

参加者名簿(その1)

氏名	所属	講演番号	懇親会	現地研究会
鮎川 恵理	八戸工業大学			
イ アヨン	北海道大学大学院農学院	B04	○	②
石川 慎吾	高知大学理学部	B14	○	②
石田 弘明	兵庫県立大学自然・環境科学研究所		○	②
李 昇京	東京農工大学 植生管理学研究室	A10	○	①
伊藤 哲	宮崎大学農学部		○	
上村 晋平	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科	B09	○	
臼田 麻純	岡山大学生命科学研究科緑地生態学研究室	P17	○	
梅原 徹	(株)建設環境研究所・兵庫県大院緑環境		○	②
戎谷 遵	広工大・院・環境学専攻	P10	○	①
大川 徹	おおかわ緑地研究所		○	①
大西 史豊	和歌山大学大学院システム工学研究科	A08		②
大淵 香菜子	東京農業大学	A06		①
沖津 進	千葉大学大学院園芸学研究科	A11	○	
柏木 伸夫				①
片桐 浩司	独立行政法人土木研究所	B08	○	②
加藤 ゆき恵	釧路市立博物館		○	
上條 隆志	筑波大学生命環境系		○	②
亀井 裕幸			○	
川田 清和	筑波大学生命環境系	A12	○	②
川西 基博	鹿児島大・教育	P19	○	②
菊池 輝海	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 生物資源科学専攻	P14	○	①
木村 絵里	東京農工大学 植生管理学研究室	P25		
久保田 七海	アジア航測株式会社	P13		
黒田 有寿茂	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所		○	②
桑原 佳子	(有)応用生態技術研究所	B01	○	①
小島 覚	北方生態環境研究学房		○	
小山 千穂	八戸工業大学大学院	P27		
崎尾 均	新潟大学農学部		○	
寄元 道德	京都大学フィールド科学教育研究センター	P16		
佐々木 裕子				①
指村 奈穂子	神奈川県自然環境保全センター	P04	○	②
佐藤 謙	北海学園大学工学部		○	①
佐藤 雅俊	帯広畜産大学畜産生命科学研究部門	B05	○	
佐藤 佑樹	東京農工大学農学府自然環境保全学専攻	P21		②
澤田 佳宏	兵庫県立大 緑景観マネジメント	P06	○	②
設楽 拓人	東京農業大学 農学研究科 森林生態学研究室	A07	○	①
島田 直明	岩手県立大学 総合政策学部	P12	○	①
島田 和則	森林総研多摩森林科学園		○	②
下田 路子	常葉大学社会環境学部	B06	○	
須貝 凌	新潟大学大学院自然科学研究科	P08	○	
鈴木 伸一	東京農業大学			①
瀬沼 賢一				
高瀬 藍	東京農業大学	P02		②
武田 義明	放送大学ひょうご学習センター		○	②
竹原 明秀	岩手大・人文社会	P28		
田中 崇行	信州大学	A02	○	
田中 徳久	神奈川県立生命の星・地球博物館	A04	○	
鐵 慎太郎	兵庫県立大学環境人間学研究科			②
寺澤 弘陽	アジア航測株式会社	P23		
戸井 可名子				①
富樫 晃一	北大院・農	B03	○	②

参加者名簿(その2)

氏名	所属	講演番号	懇親会	現地研究会
徳岡 良則	(独)農業環境技術研究所		○	
富田 瑞樹	東京情報大学	P24		①
中田 誠	新潟大学農学部		○	
中西 正		B02	○	
中野 隆志	山梨県富士山科学研究所		○	②
永松 大	鳥取大・地域	P22	○	②
中村 徹	筑波大学生命環境系		○	①
中村 幸人	東京農業大学		○	①
成ヶ沢 久仁子	アジア航測(株)			②
新倉 夏美	東京農工大学			①
西尾 孝佳	宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター	P20	○	
西本 孝	岡山県自然保護センター		○	①
長谷川 奈美	入間市博物館		○	②
浜田 拓	(株)地域環境計画		○	
原 慶太郎	東京情報大学総合情報学部	A01		
原田 敦子			○	②
比嘉 基紀	高知大学理学部	B11	○	②
肥後 睦輝	岐阜大学地域科学部	P07		
平吹 喜彦	東北学院大学 教養学部 地域構想学科	B13	○	②
蛭間 啓	長野県環境保全研究所		○	
深町 篤子	東京農工大学大学院 植生管理学研究室	A05	○	
福嶋 司	放送大学		○	①
富士田 裕子	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園		○	②
藤原 道郎	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科/兵庫県立淡路景観園芸学校	P05	○	②
藤彦 祐貴	新潟大学大学院 自然科学研究科	P18	○	
藤原 千鶴				①
二神 良太	広島工業大学			①
船本 麻奈未	北海道大学農学院	P03	○	②
星野 順子	星野フィールドサイエンス		○	②
星野 義延	東京農工大学大学院	P26	○	②
前迫 ゆり	大阪産業大学大学院人間環境学研究所	B10	○	
松村 俊和	甲南女子大学 人間科学部		○	②
水野 大樹	千葉大学大学院園芸学研究科	P09	○	
村上 知帆	東京農工大学大学院 自然環境保全学専攻 植生管理学研究室	P11		
村上 雄秀	IGES国際生態学センター	B12	○	
目黒 伸一	国際生態学センター	A13	○	②
森 優美	筑波大学大学院	A03		①
八木 正徳	東京農工大学 植生管理学研究室		○	①
薬師寺 啓二			○	①
山川 博美	森林総合研究所九州支所	P15	○	②
山本 聡子	一般財団法人上越環境科学センター		○	①
吉川 正人	東京農工大・院・農	A09	○	②
依田 伸治	ほんみち			②
若松 伸彦	東京農業大学地域環境科学部	P01		②
若山 正隆	浦和自然観察会	B07	○	①

現地研究会①(10月17-18日), 現地研究会②(10月20-21日)

会場へのアクセス

会場: 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)

〒950-0078 新潟市中央区万代島 6 番 1 号

電話 025-246-8400 Fax 025-246-8411 ホームページアドレス <http://www.tokimesse.com>



公共交通機関をご利用の方

- ・ JR 新潟駅万代口から徒歩 20 分
- ・ JR 新潟駅万代口よりタクシー5 分
- ・ バス JR 新潟駅万代口バスターミナル 5 番線 佐渡汽船行「朱鷺メッセ」下車

自家用車をご利用の方

会場近くに万代島駐車場(有料)がありますのでお使い下さい。

新潟空港から新潟駅までの移動

- ・ タクシー20 分
- ・ リムジンバス25分